

令和4年10月25日

新宿区子ども子育て会議

会長 高橋貴志 様

委員・関係者各位

新宿区私立幼稚園連合会

会長 千葉伸也

### 子ども子育て会議意見書

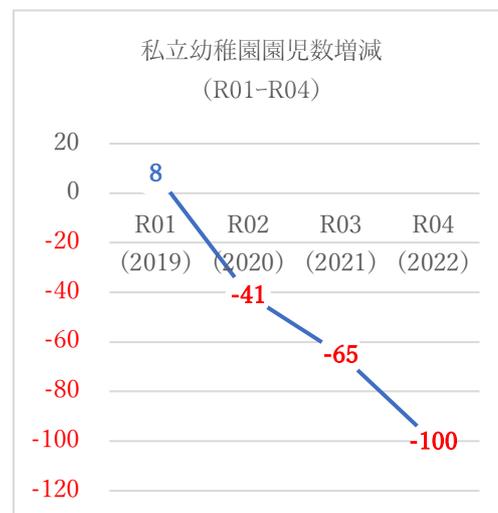
～私立幼稚園の新制度移行と新宿区幼児教育衰退の問題について～

豊多摩幼稚園及び四谷新生幼稚園の両園は、長きにわたって新宿区の公教育を担い、豊かな幼児教育の実践により、地域の子育てに多大な貢献をしてきた実績と信用を鑑み、子ども・子育て支援新制度への移行について何ら問題がないことをまずご報告申し上げます。

新宿区内の私立幼稚園はどこも長い歴史があり、戦後復興の極めて困難な状況下においても、遊び場を失った子ども達の未来を案じ、必死で地域の幼児教育を守ってまいりました。しかし、現在までに数多くの保育施設が設置され続ける中、幼児人口の減少によってすでに供給過多となり、コロナ禍や幼児教育の無償化による影響も伴って、深刻な経営難に陥っています。かつてはベビーブームの頃、小学校へ併設されていた区立幼稚園の影響で、私立幼稚園は園児数と園数を大きく減らし、その後は物価高も相まってさらに減少の一途をたどりました。このままでは、大正・昭和の時代から続いてきた新宿の幼児教育は間違いなく衰退することでしょう。令和4年度には、区立幼稚園の園児数も12%以上減少し、令和5年度にはクラス編成基準を満たすことができなくなる見通しも立っています。私立幼稚園も同じく10%程の園児数減少となり、過去最大の減少幅となりました。

新宿区私立幼稚園在籍園児数推移

	R01 (2019)	R02 (2020)	R03 (2021)	R04 (2022)	R01→ R04 比較
園児数	1,126	1,085	1,020	920	-
増減	8	-41	-65	-100	-206
前年比	100.7%	96.4%	94.0%	90.2%	81.7%
伸び率	0.7%	-3.6%	-6.0%	-9.8%	-18.3%



この度、豊多摩幼稚園と四谷新生幼稚園が子ども子育て支援新制度へ移行する件についても、昨今の園児数減少が主な要因ともなっています。このまま園児が減り続けていく中で経営難に陥ることがないよう、私学の独自性に多少の制限がかかったとしてもやむを得ず新制度へ移行する決断をされたことと思います。こちらにマンションができるからと施設をつくり、あちらに大きなマンションができるからと施設を増やし、ニーズがあるだろうと保育施設を増産してきたことが、幼児人口減少と共に多くの保育所や幼稚園の存続を脅かす問題となっている事実を把握されているでしょうか。国の労働施策と親の就業率上昇に合わせ、行政がニーズに応じて利便性を向上しようとすればするほど、やってもらうことが当たり前となって権利主張する人が増えているようにも感じます。子どもはモノではありません。子育て、保育、教育というのは単なるサービスではないのですから、「大切な命を預かっていただく」、「豊かに育てていただく」のだという保護者の意識と協力の姿勢がなければ、子育てという事業は成立しません。福祉をサービス化させてしまい、好条件の園を渡り歩くような保育士まで増やしてしまっただけでは、この先の保育・教育は子どもの命すら守ることができず、早晚立ちゆかなくなるはずで

子育ての第一義的責任は家庭にあるとする幼稚園は、家庭と手を携えながら共に豊かな子育てを実践しようとしています。長い歴史の中で培ってきた幼稚園教育は、新宿の財産と言っても過言ではないでしょう。地域の幼児教育を決して衰退させることなく、保幼で連携しながら益々発展し、子ども達の幸せな未来に貢献し続けるための、抜本的な対策を講じてくださいますよう、くれぐれもお願い申し上げます。

(参考：新宿区私立幼稚園の創立年)

私立幼稚園名	創立年	周年
目白平和幼稚園	1916年	106周年
豊多摩幼稚園	1931年	91周年
伸びる会幼稚園	1949年	73周年
下落合みどり	1951年	71周年
目白ヶ丘幼稚園	1951年	71周年
戸山幼稚園	1952年	70周年
四谷新生幼稚園	1952年	70周年
牛込成城幼稚園	1955年	67周年*成城学校 137周年
おおや幼稚園	1970年	52周年

(\*創立順)